

「 巻網船団の団結力 」(協同組合通信/金曜論弾) 15.02.14

日本農業を巡る種々の問題解決や決断を迫られる年。二月にWTO世界会議が東京で予定されている。農水省・JA・業界の動きが慌しい。

衆知を集め、国家百年の最善の食糧対策を掲げる、絶好のチャンスと前向きに捕らえるに如くは無い。

水産学部の特設専攻科を終え、面識の無い先輩に誘われ、安乗の叩き上げ漁師が率いる巻網の会社に入った。

議事堂側の事務所で、早口の血気盛んな四十前の社長の薫陶を一週間受けた。

那智勝浦に、船団が時化で入港したので供をしろという。気軽な気持ちで、小名浜の漁労長以下、圧倒的な迫力と雰囲気幹部に紹介された。その夜、勝浦一番のホテルで船団の乗り出しの大宴会が催され、泥酔のまま船長となり深夜の初出港。一船団は、別名一ヶ統と呼ばれ、漁労長の下に、網船 1、探索船 1、運搬船 2 の四船、約 50 名の船員で構成。

板子一枚、船団の規律は厳しく、序列と寝床は腕と度胸で自然に決まる。

団結は固く、外部の者には窺い知れない鉄壁の掟と情がある。

陸に上がった身。団結力に関して分かったことが 3 つある。

契約金 職位や能力を船頭（漁労長のこと）が、直系の幹部（船長、機関長、局長、甲板長等）数名と面談し、正月に一同を集合させ、年俸（固定給）を決める。この案に沿って、会社と船頭が契約する。

三分金 漁獲高の三分（3%）を水揚げしたその場で、問屋から船頭が一括して受け取り、全員に能力に応じて手渡しする。このお金が馬鹿にならない。船頭の腕・水揚げ次第で三分金と年俸増の見入りが決まる。正に水商売。

責任を取る 船頭は漁労全般に通じ、会社との交渉に全力を挙げ、リーダーシップで意思を統一し、結果の言い訳をしない暗黙の了解があった。

誠に、現金・ドライで分かりやすい。腕の良い船頭には黙って部下がついてくるが、獲れない船頭や腕が落ちた船頭は、会社と部下から容赦無く見限られる。深情けなど無い生活をかけた漁師の側面。

三分金で夜を徹して飲むが、しっかり船頭や水揚げ高の情報交換もし、八戸の夜は華やか且つシビア。早朝・深夜・学歴不問の男の世界。

(気象情報システム株式会社 高津敏)